

[第648回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和4年6月16日(木) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 産経新聞大阪本社

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎
たつみ 都志 鎌田 雅子
上林 寛和 徳永 潔

放送事業者側出席者の氏名

吉田 禎宏 安東 義隆
赤松 加枝子 坂田 祐介

4. 議題

1) 番組審議 『辰巳ゆうと ここでゆうとこ』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題 1) 『辰巳ゆうと ここでゆうとこ』について、番組の企画意図と内容を説明し、番組を聴取した後審議に入った。

6. 審 議 内 容

社 側 藤井寺市出身、デビュー5年目の若手演歌歌手で現在、演歌第7世代として人気を集める辰巳ゆうとがパーソナリティを担当する30分番組。2019年毎週水曜日 夜9時半に放送を開始、2022年4月からは放送日を移動しました。トークは関西弁。出身地である藤井寺市の話や大阪の情報などローカル色濃い目な番組で、地域以外で聴くリスナーも番組を通して関西らしさを楽しんでいただける内容です。

『ゆうとのどこでもコンサート』はデビュー前、東京でストリートライブを行っていたことを活かし、毎週、想像の場所・設定で辰巳ゆうとがアカペラで1コーラス歌います。想像であれば宇宙でも歌えると、辰巳の想像力と、表現力を使ったリスナーからも人気のコーナーです。

また、辰巳の歌以外に、同じビクターエンタテインメント所属歌手のおすすめの1曲を流し新曲情報も伝えます。

<各委員のご意見>

委 員 率直に、非常に聴きやすく、普通、アナウンサー以外の方だと、どうしても話が聴き取りにくい。実は、自分の声を録音して流す機会があり、自分で大人しくしゃべっているようにやっても、後で聴き直すと本当にプロとアマの差ってものが凄くあるのがわかり、(自分の話が)聴きにくいと思いました。自分ではハッキリくっきりしゃべったつもりでしたが。ところがこの方は本当に、歌手だからというのもあると思いますが、発音も明瞭ですし、声も非常にやわらかくて、本当に驚きました。(アナウンスの)トレーニングされてない方で、これだけなめらかに喋られるもんなんだというふうに、そこは非常に興味しました。

構成についても、番組の方でお手伝いされていらっしゃると思いますが、前のびなく、非常にユーモアも交えて良かったと思います。

一つ思ったことは、私は演歌は全く聴かないのですが、この番組はおそ

らく演歌が好きで方向けなんだということだと思いました。率直に私のように演歌を聴かない人には、知らずに聴き始めて「演歌の人の番組なんだね」とわかったら、(他局に) 変えちゃうかもしれません。それはそれで割り切りだとは思いますが、そういう狙いをされたら、それでいいとは思いません。

ただ、ちょっと歌が多いと思いました。1曲位少なくして、もう少しお喋りを聴きたかったなというような気が個人的には致しました。FMではしゃべりなしでほとんど音楽だけという番組がたくさんありますので、歌なら歌、しゃべりならしゃべりというところと、その間をこの番組は取っていらっしやるので。もう少し「辰巳さん」という方のパーソナリティみたいなものがあると…まあ最近モノを言えば、非常に唇寒い世の中ですので、何かうっかりしゃべると「アイツ何言ってんだ！」とか「けしからん」みたいなことが起こるので、どうしてもみんな当たり障りもない発言にしかなくなってくるんですけど、そこはこの、地域ネタみたいな、例えば弁天町のお話ですとか、こういうのは非常に好ましいと思いますし、聴いてる方も臨場感が出ますので。例えばですけれども、辰巳さんが大阪市内の古い商店街を回ったとか、千林大宮商店街でたこ焼き食べましたなど、そんなことでも彼のパーソナリティで話してもらえると、彼の人間味とその歌の上手さと話術の上手さみたいなものができて、さらに大阪を愛する演歌歌手というような番組に面白さが出てくるんじゃないかなと思いました。

ということで、ターゲット次第の番組だなというのが私の感想です。内容には全く問題ございません。

委員

声もキレイだし、歯切れも良くて、テンポもちょうど良いし。適度なローカル性があるって、それもいいなあと思いました。大阪だったらちょっと南に振ってる感じがしたので、北の人間には耳覚えのない名前が出てきますが。私も辰巳さんのことを知らなくて、さっきネットで顔を見ました。声は本当に美しい男性声なのですが、顔はどちらかというと宝塚の女優さんみたいな感じで、そのギャップに驚きました。

シビアに言うと、客観性がないという感じがしました。すごく主観的な感じがして。それをわかりやすく言うと、コアなファン層にはすごくいい番組だと思います。彼のことを良く知っていて、彼のコンサートにも行って、彼の顔を知っててっていう、そういうコアなファン層だったらしびれるような30分だと思います。

でも、たまたま聴いてしまった人をどう掴めるかというのがすごく大き

な問題だと思うんですね。だからその30分番組を聴いて紹介された場所へ行ってみたいなあって思っても場所がわからないとか、或いは特にこの「ゆうとのどこでもコンサート（コーナー名）」というのは、いつも車の中で聴くのですが、最初2回はスルーしてしまったんです。今日来るとき、高速を走りながら聴いてたら「あ〜そういうこと」だとやっとわかったんです。つまりある場所、ストリートを自分で想定して、そこでそのストリートで、その人の目に浮かぶ物から話が繋がって行って、ファンから来た手紙のリクエスト曲を歌うという。だから3回目でやっとわかったんです。ということはボーっと聴いていたらわからないってことですよ。だから一過性の人が入ってきて、果たしてその中に自分がのめり込めるかという、かなり問題があるかと思います。それが一番最初に言った客観性がないってことです。

だからすごくコアな人を引きずる反面、一過性の方はスルーしてしまっただんどん、だんどん広がっていくという方向ではちょっと難しいかなと思いました。

そして、ここまではシビアな意見ですが、（この番組を）自分で30分組み立てられてるとしたら、非常に構成が上手だと思います。誰かブレーンがいたら別ですけど。つまり水曜日から火曜日に変った時に、自己紹介代わりに一番最初にデビュー曲をかけるとか、そういうなかなか構成までできる人っていないので、もしご自分でやっていらっしゃるということであれば、構成力がある方だなと思いました。だから逆にもったいない。24歳の若さですから、まだまだ可能性があるんじゃないのかなと思いました。

ちなみに私、全然歌はわかりませんが、山内恵介とどう違うのかな？って。声もどっちがどっちかよくわからないので、それがちょっと残念でした。

委員 今回の番組の辰巳ゆうとさんは声も爽やかですし、明るくて、嫌味も全くなく、さらっと聞けて、問題は何かないと思います。

強いて言うならちょっと特徴がないのかなと。前回の真田ナオキさんは声にすごく特徴があり独特な感じだったので、前回と今回、比べるのは申し訳ないですが、そういう所から無難な感じがしたかなと思います。でもそれはそれで聞きやすいということもあるので、これでいいのかなと思っています。

この番組に関しては、ファンの方にはきっと申し分ない番組なんだと思いますし、ただファンでない方にとすると物足りない感じはするのかなというのはいまはないと思います。

辰巳さんがどんな人か知らなかったのでもネットで調べたら、これがものすごくイケメンでビックリしました。本当に若くて王子様みたいな感じでホント、びっくりしたんですけど。そういうこと言うと、一人だけでお話されるのではなく、もし誰か相方がいたら、もっと面白く話を広げられたり、自分がイケメンとはなかなか言えないので、いかにそのイケメンかを相手の方に言ってもらえたら、興味が湧く人がいるのかなぁと思いましたし、番組の中でも一言もそういう話が出なかったのでも、そこは少しもったいないのかなとすごく思いました。辰巳さんのことは知らなかったのですが、その王子っぷりが写真で見ると限りでは、ファンの方は多いんだと思います。そういう意味ではこの番組は成立している番組なんだと思っています。何も言えず申し訳ないのですが、今回はこれでいいと思っています。

委員

今回の番組のポイントと言いますとやはり時間帯が変わった、番組が引越したという所で、これは一つチャンスだと思います。新しいファンを増やす絶好の機会だったりとか、新しい演歌ファンを増やせるそういうチャンスであろうというような視点でこの番組を聴いた時に、「聞きやすさ」について他の方もおっしゃってましたけど、聞きやすさがゆえに、スッと流れてしまう感じがあって。そもそも、私も辰巳ゆうとさんがどんな人か全く知りませんでしたし、ストリートライブから出てきて、在学中にデビューしてとか、まあ色々な24年の人生の中で、面白いものが多分あると思います。そういった所をもう少し、自己紹介としてデビュー曲を出されていたのはそれはそれでいいんですけど、「この人どんな人なのか」というのを答えてもらえる形にした方がいいのかなという風に思いました。

私は演歌は全く聞きませんので辰巳さんは第七世代と言われていたのですが、「演歌第七世代」というコトバを初めて知りましたし、じゃあ「第五世代に誰がいるのか？」「第六世代に誰がいるのか？そういう感じなのか？」そういう演歌の平成以降の流れなどをネットで見ると、なんとなく最近の演歌の人たちっていうのはルックスもいいし、本当に声もいいし、アイドルみたいと感じました。そういう人たちが活躍している、そういう演歌の時代になっているのかと。それはそれで面白いなって感じはあるので、それをご本人に歌手の立場で話してもらってもいいし、あるいはもう一人誰か置いて「今、演歌の業界はこういう風になってます」そういった中で「辰巳さんがこんな位置付けなんですよ」みたいなことを言ってもらえるとより演歌の世界、あるいは辰巳さんの世界が分かって、自分なりの演歌ワールドが自分の中に入ってくるのかなという風に思いました。

全体としてみれば、本当に聴きやすくて、気持ちのよい30分であると思

います。

委員 番組審議をやり始めて私も25年たったんです。25年経つとだいぶ大阪も変わってきたので、一言で「関西風」「大阪風」って言っても、ずいぶん変わってきてるんです。そのあたり、あまり固定観念でなくて、私たちも気が付いていない大阪の良さ、関西の新しい面も発見してほしいなど。ちょっと、この番組聴いた限りでは、この歌手のイメージ以外あまりなかったの。この辰巳ゆうとのイメージはハッキリあるので、そういう意味では成功だと思いますが、もう一つ、どんな話聞いたかな？ってこの番組に関してはちょっとあまり印象がなかったんですよね。私は羽曳野市で長い間ずっと仕事しています。もうすぐ始まるんですけど、古墳が世界遺産になったこともあって、今までなかった観光都市のPR、未来を見据えて南河内も藤井寺も動いています。でもそんな話ばかりならダサくなってしまいますが、それでも30分番組で1つ位何か発見があるとか、「おや」って話を聴かせてくれたらどうかなと思います。やはりそこはスタッフが仕込んでいかないとわからないと思うんです。

まず、番組そのものは、辰巳ゆうとというのは一応成功してると思います。写真を見て、イケメンでビックリしました。演歌も昔の演歌「恨み節」というかそういうのって今は違う。ちょっと軽快になって、軽やかで、甲高い声で、氷川きよしあたりからちょっとずつ変わってきて、最近では山内惠介だったり、その辺り変わってきましたよね。ハッキリ言ったら、今の演歌もホストに近い感じがします。ホストのように、キレイな人で。そういう意味では女性の歌手も、藤あや子とか長山洋子とか、みんなキレイですし、あんまり「恨み節」とかも違うと思うんです。演歌そのものも変わってきてると思います。

最近YouTube見てるとね、私が一番変わってきたと思うのはね、ベリーダンスです。ベリーダンスの動画が多くなってきました。おそらく、みんな色々な人が投稿できるからでしょう。これがね、中近東・エジプトのベリーダンスだけではなく、ヨーロッパでもロシアでもアメリカでも、みんなそっちの女の子が始めてるベリーダンス。音楽も、一応、現代のワールドミュージックに近いと思います。昔は東アジア・東南アジアのワールドミュージックが中心でしたが、最近では中近東のワールドミュージックでベリーダンスを踊る。フランスのシャンソンなんかでも、エンリコ・マシアスあたりからね、ベリーダンス風のサルサに変わってきています。だから世界的にどんどん変わってきてるので、そういう面から見ても、演歌も新しい境域に入ってきてるような気がします。そういう意味では、演歌その

ものの色んな可能性を探ってほしいですね。今回かかった3曲全部、割と偏屈でヒットしそうにない、まあ安全な感じがしましたが。その演歌の問題が一つ。

もう一つが関西のローカル色を出すとっていますが、関西人は関西をよく知ってると思われるけど、意外に知らないの、毎回一つ位は驚きというか新鮮さを、関西らしさを出してほしい。ローカル番組でも紋切り型でなくて「おやっ？そういうのがあったんだ」と、それを探ってくれと面白いと思うんですよ。だから安易に関西なら関西の普通よりも、新しい事実を提示してくれた方が面白いと思います。

河内風土と言っても、中河内と北河内と南河内でだいぶ違います。私は思うのは、割とおっとりして、柄もいいので、だから中河内のように、ああいう河内音頭的なものどだいぶ違います。今度世界遺産の委員会ができたので、このあたりの地域は勢いのついでに、だからその地域らしさも河内の中で随分違うんだと、その辺まで突っ込んでくれればと。でも辰巳さんにそんなこと言ったらムリあると思うので、そこはスタッフが毎回1つ位話を提供して、協力したらいいと思います。今正直、新しい観光地やそこへの誘致が始まっているので、先月の富田林の番組でも、観光地がね、単なる観光地ではなくて、新しい名所を作るのではなくて、既存の名所に新しい価値を作り出していく、そういう流れに来てると思います。そういう意味では河内についてももう一回、研究して、例えば、昔はよく、河内の言葉を今東光（こん・とうこう）のドラマが広めたんですが、最近の研究では、この言葉が河内弁とは違うって言っています。山崎正和さんが言っていたんですが、今東光の兄弟は、青森・津軽の出身なんですよ（※）。なので津軽的なユーモラスですよ、これは。河内の人間のユーモラスとはまた違うって言うんですよ。ところが、あまりにインパクトがあったから、それ以外にも河内って言うてました。地元の間も地元の良さをわかってるのかと言ったら怪しいですが…。そういう意味では新しい、ローカル地を紹介してほしいと思います。。

番組としては極めて成功してると思います。やはりこの歌手の魅力というのがハッキリわかりやすいから。だからあんまり難しく言わず、毎回一つ位何かちょっと新鮮なネタを振ってくれたらいいなあとその程度です。

※正確には今東光の父が代々津軽藩士山奉行家系の出。今東光は横浜の出身。

委員 この番組について自分で覚えているのですが、タクシーに乗った時にラ

ジオがついてて運転手さんに「これどこの放送局？」って聞くと「ラジオ大阪」って答えて、「なんでラジオ大阪なんですか？」と聞いたら「音楽がいつもここはかかるんです」と。要するにチャンネル（周波数）を変えないんです。そういうこともあり「ラジオ大阪」を意識していると、やっぱり音楽が多くかかりますし、この審議会で述べた我々の意見が通ったり、影響しているのかどうかわかりませんが、この番組をこうして今拝聴したり、自分で頂いたもので聴くと、30分番組で音楽が4曲。でもほとんどが、この辰巳さんという歌手がお話をなさって。皆さん褒めていらっしやっただように、この構成で行き届いてると確かに私もそう思います。ハッキリ言うと、レコード会社（ビクター）の仕切り中で、ちゃんと行き届いたと思うのは、やっぱり水曜日から火曜日に移ったことを一番最初にちゃんと言って、それで新しいファンのために、この人がどんな曲でデビューしたかをちゃんと言って、次に新曲がかかって…。そしてオススメの1曲、まあ要するにビクターが勧める曲ですが。そして最後にこの「あゝ上野駅」（辰巳の曲）。ということで、至れり尽くせりというか、ちゃんとその辺のわき前があつての番組だと私は思いました。だから、ちゃんとした音楽を伝えるという番組だと思うので、おしゃべりはどうでもいいと言うものの、やっぱりこの、おしゃべりは大事だから。この人の個性がよく出ているし、丁寧だし、しっかりしてて、やわらかいし、非常にこれはいい番組だと思います。

後でローカル色の話がありましたけども、良く言えばそういうことで、彼自身の中で河内弁が入っていないし、あまりローカル色は出てないけど、それはそれで、各地で聴いてる人もいるかもしれませんし、まああえて言うなら、そういう面での何か1つローカル色がはっきり出た方が、ちょっとピリッとワサビが効くんじゃないかと思いました。

（コーナーの）「どこでもコンサート」の考え方が非常に面白いと思いました。ウィットにとんだ、もともとストリートライブしてたからということで。現実にこの人の他の番組は聞いていないが、だからどこでどういう風なことやってるかわからないし。でもタイプが面白いので、どういう風に、どんな形でやられてるのかなってちょっと興味持ちました。そういう面ではなんとなく音楽と、おしゃべりでしょ。それからリクエストが1曲、そういう形では割とよくできてると思います。

まあ、色んな番組があつて、漫才なら漫才の時間があるし、落語は落語の時間はあるけども、やっぱりこういう一つの新しい、まあ宣伝と言えば宣伝ですけど、それはそれで承知の上で、ビクターさんに乗っかって、ここで新曲出るとか。

だからこの人間（辰巳）が、この文章（資料）を見るだけではどういう人がわからなかった。そういうことを思いました。

社 側 貴重なお意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・ 「番組審議会だより」（第648回大阪放送番組審議会議事録の要約）
「藤川貴央のニュースでござる」内で放送
放送日 令和4年7月27日（水）7時15分～7時20分
- ・ 「番組審議会だより」（第648回大阪放送番組審議会議事録）
ラジオ大阪ホームページ（<http://www.obc1314.co.jp>）に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。

9. その他の参考事項

訂正放送または取り消しの放送の請求及び請求に対しての措置が無い旨を報告。

以上